

花輪俊哉名誉教授研究業績

- 『一橋論叢』39巻5号 「資本蓄積論の2視点」 昭和32年
- 『金融経済』59号 「物価理論の再認識」 昭和34年
- 『一橋論叢』44巻2号 「傾斜構造の金融的側面の分析」 昭和35年
- 『一橋論叢』46巻5号 「新しいインフレの一考察」 昭和36年
- 『金融経済』66号 「金融政策復活の機構」 昭和36年
- 『一橋論叢』48巻5号 「金融政策の有効性」 昭和38年
- 『東京学芸大学紀要』 「安定成長の金融政策」 昭和38年
- 訳訳 (小泉・山田と共訳) W・T・ニューリン『貨幣の理論』(東洋経済新報社)
昭和39年
- 『一橋論叢』53巻6号 「現代インフレーションの分析」 昭和40年
- 『金融論講座』第3巻(有斐閣) 「金融資産の累積」 昭和40年
- 『生命保険文化研究所論集』5号 「金融機関としての生命保険会社の機能」
昭和40年
- 地銀協『銀行叢書』139 「銀行行動と通貨供給方式」 昭和41年
- 『東京学芸大学紀要』19集 「中小企業金融機関の機能と問題点」 昭和42
年
- 『バンキング』(産業経済社) 「経済循環の均衡条件についての一考察」
昭和42年
- 『経済研究』(一橋大学) 「貨幣の循環図式と生産構造」 昭和42年
- 『一橋論叢』58巻4号 「インフレーション理論の再検討」 昭和42年
- 『金融経済』105号 「経済成長と金融資産の構造」 昭和42年
- 『生命保険文化研究所論集』7号 「経済成長と生命保険」 昭和42年
- 『金融論講義』(青林書院) 「物価」 昭和42年

(112) 一橋論叢 第114巻 第5号 平成7年(1995年)11月号

『金融経済講座1』(荒との共同論文) 東洋経済新報社 「戦後日本の成長と金融」 昭和43年

『ビジネス・レビュー』vol. 16, no. 3 「個人の金融資産構造と中小企業金融機関」 昭和43年

『ケインズ一般理論研究』(筑摩書房) 「現代インフレーション論」 昭和45年

『一橋論叢』64巻2号 「貨幣制度とインフレーション——フリードマン貨幣理論の検討」 昭和45年

『ビジネス・レビュー』vol. 18, no. 3 「企業の資金調達と金融政策」 昭和45年

HITOTSUBASHI journal of commerce & management “A Study of Equilibrium Condition in The Theory of Economic Circulation” 昭和46年

『経済学ガイドブック』(東洋経済新報社) 長澤との共著 「現代の金融理論」 昭和46年

『一橋論叢』66巻4号 「貨幣価値についての一考察——二つのアプローチ」 昭和46年

『一橋論叢』66巻6号 「利潤と物価」 昭和46年

『近代経済学の基礎知識』(有斐閣) 「金融方式」・他 昭和46年

HITOTSUBASHI journal of commerce & management “A Study of The Value of Money” 昭和47年

『生命保険文化研究所論集』 「わが国物価の歴史的分析」 昭和47年

『日本経済事典』(講談社) 「金利水準と金利体系」, 「物価」 昭和48年

『一橋大学商学研究』16 「金融経済の論理と金融機関の機能」 昭和48年

HITOTSUBASHI journal of commerce & management “Profits and Prices” 昭和48年

『近代経済学再考』(共著) 有斐閣 「貨幣はヴェールか」 昭和49年

『ビジネス・レビュー』vol. 21, no. 3 「外国為替相場についての若干の考察」 昭和49年

『一橋論叢』71巻4号 「貨幣数量説の新と旧」 昭和49年

『一橋論叢』74巻4号 「貨幣の定義——交換手段としての機能の再検討」

昭和50年

『金融の経済学』（有斐閣） 「貨幣供給方式」 昭和51年

『一橋論叢』76巻1号 「国債発行と金融制度」 昭和51年

『金融経済』156号 「貨幣と流動性」 昭和51年

『ビジネス・レビュー』vol. 25, no. 3 「インフレ時代の銀行と金融政策」

昭和52年

『金融入門』（有斐閣） 「金融政策」・他 昭和52年

『一橋大学商学研究』20 「貨幣と金融経済」 昭和53年

『一橋論叢』79巻5号 「ケインズ経済学の復位」 昭和53年

翻訳（丹羽と共訳）J・S・フレミング 『インフレ理論の新展開』（日本経済評論社） 昭和53年

『金融概論』（春秋社） 「序章」および「貨幣数量説の新と旧」 昭和54年

『ビジネス・レビュー』vol. 27, no. 4 「マネー・サプライの外生性と内生性」

昭和55年

『一橋論叢』83巻6号 「ケインズ経済学と金融理論」 昭和55年

『貨幣と金融経済』（東洋経済新報社） 昭和55年

HITOTSUBASHI journal of commerce & management "The Nominal Rate of Interests and Inflationary Expectations" 昭和55年

HITOTSUBASHI journal of commerce & management "On The Definitions of Money" 昭和56年

『金融経済』（東洋経済新報社） 昭和57年

『体系経済学辞典第6版』（東洋経済新報社） 「金融政策」・他 昭和59年

『金融概論』（有斐閣） 「貨幣の流れと国民経済」・他 昭和60年

『ビジネス・レビュー』vol. 31, no. 4 「金融革新と金融秩序」 昭和59年

HITOTSUBASHI journal of commerce & management "On The Art of Central Banking" 昭和59年

『一橋論叢』94巻3号 「金融自由化と金融政策」 昭和60年

HITOTSUBASHI journal of commerce & management "Taisho Era Controversies over Principles" 昭和60年

HITOTSUBASHI journal of commerce & management "Beyond Keynes'

(114) 一橋論叢 第114巻 第5号 平成7年(1995年)11月号

Economics” 昭和61年

『一橋論叢』96巻5号 「『雇用・利子および貨幣の一般理論』を超えて」
昭和61年

『一橋論叢』99巻2号 「金融構造と金融の証券化」 昭和63年

『一橋論叢』101巻5号 「金融機構の变革と金融理論」 平成元年

『生命保険文化研究所論集』80号 「機関投資家としての生命保険会社」
平成元年

『一橋大学商学研究』28 「国際貨幣制度をめぐる論争の回顧と展望」 平成2年

HITOTSUBASHI journal of commerce & management “Monetary
Theory and Changes of Financial Institutions” 平成2年

『一橋大学商学研究』32 「金融経済化の進展と市場経済の意義」 平成4年

『日本計画行政学会・特集号』32 「金融システムの将来像」 平成4年

翻訳(小川と共訳)J・R・ヒックス 『貨幣と市場経済』(東洋経済新報社)
平成4年

『生命保険文化研究所論集』105 「ケインズ時代と現代」 平成5年

『金融経済研究』(金融学会)6 「計画経済の崩壊と市場経済」 平成6年

『金融経済研究』(金融学会)7 「ケインズ時代の再来」 平成6年

『成城大学経済研究所年報』8 「銀行の将来」 平成7年

『一橋大学商学研究』35 「Welfareと金融機関」 平成7年

『日本の金融経済』(有斐閣) 平成7年